

①

演題名 特別養護老人ホームこはく苑が取り組む認知症・フレイル予防事業

所属 株式会社ヘルステクノロジー 代表取締役

演者氏名 (フリガナ) 和泉 逸平 (イズミ イッペイ)

【背景】

認知症は多くの方の将来リスクと考えられているが、その発症は生活習慣の予防により40%軽減することができると考えられている。各地で予防事業が実施されているが、本当に認知機能低下リスクの高い人の多くにはアプローチできていない。

【目的】

生活習慣の変容を促進する人材を育成するため、東京大学酒谷研究室が開発した「AICOG (健康診断データを活用した認知機能低下リスク判定)」及び鹿児島県のつみのり内科クリニックで実践されている「体験型健康医学教室 (りんご教室)」を導入し、特別養護老人ホームこはく苑 (栃木県足利市) の介護スタッフに研修を行った。

【結果】

研修前の介護スタッフは、対象者が要介護状態になってからの専門家という意識だったが、「何歳からでも心と体は生まれ変わる」という細胞モデルを核としたりんご教室の体系的な学習 (オンライン受講) をすることで、生活習慣の大切さを理解し、介護状態になる前にできることが整理できた。

【考察】

こはく苑では、加えて、弊社が開発した介護業務時間分析ツール「FTcare-iTOS」を用いて、業務量と人員配置の見直しを行い、夕刻に地域高齢者が就労できる時間帯を作った。新型コロナウイルス感染症対策のため実施には至っていないが、施設内研修を進め、体制移行を行っている。この変更ができれば、夜間、特に早朝の介護負担を軽減することができるかと仮定しており、全体の意識改革を行うため、人事評価制度の変更にも着手した。

取り組み当初は施設内の人材不足の解消が第一目標であったが、採用のDX化、定着促進するための工夫を重ねたことにより、施設長が掲げる理念の実現に取り組み始めることができた。この間、全てが順調だったわけではないが、問題を可視化・共有し、地域課題に目を向けることで、在宅介護分野から徐々に意識が変わってきたのは大きな成果であった。

